

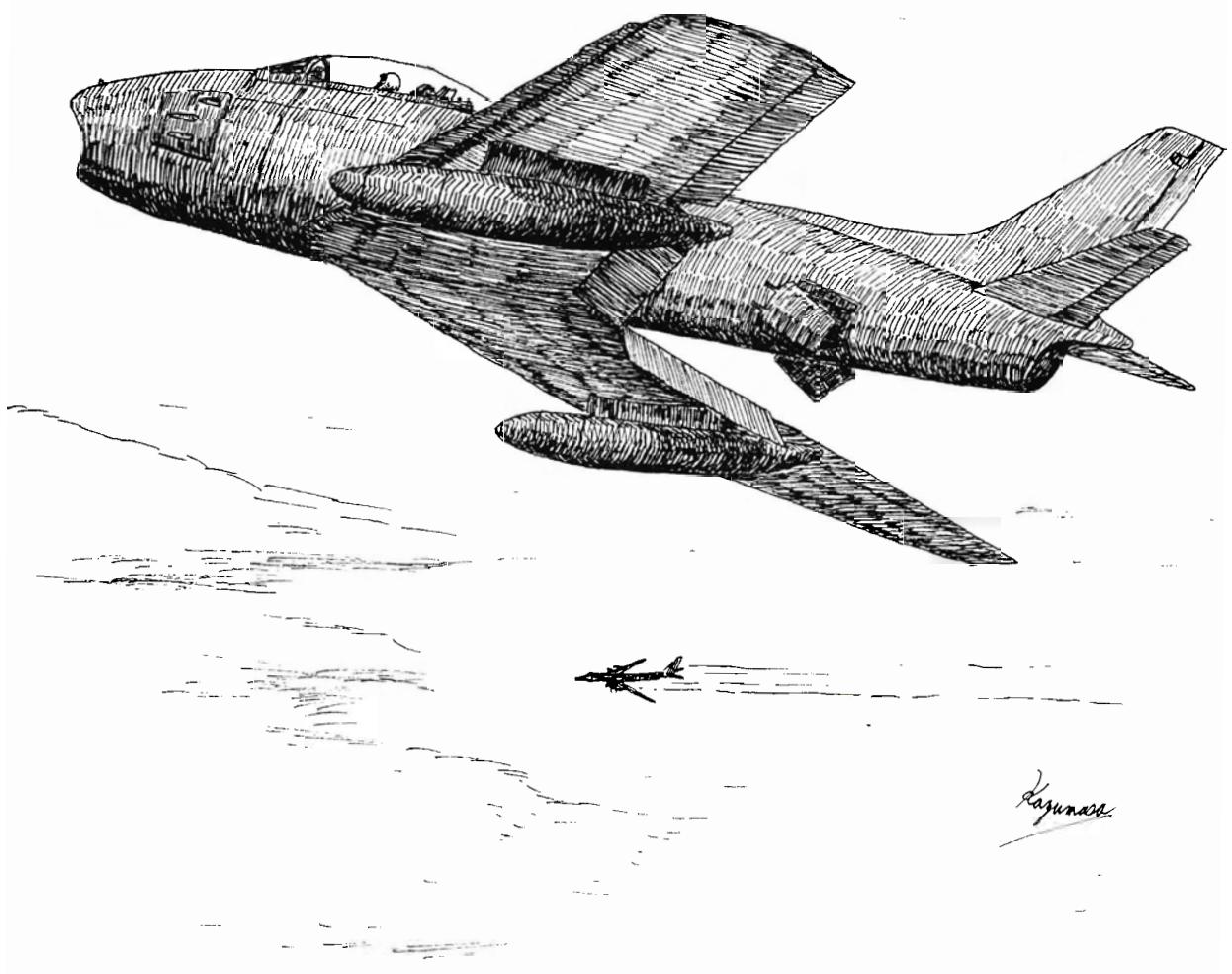
大 河 空 戰 P B M

SONIC DIVER

第5回結果発表

(ゲーム時間: 1958年8月)

シリーズ通算: 第28回



☆戦果報告

《基地・日本》

ガルマン大佐：対ソ戦は最悪だ。敵の勢力は衰えるどころかますます増強されて、三沢も半月ともなった。どうやら露助は本土からの補給物資の不足分を現地調達で補っているらしい。空軍機はなかなか落とせんし、陸軍も装甲車輛が固すぎてなかなか壊れない。おまけに数で押してくるから、なんとか進撃を鈍らせて民間人の避難時間を稼ぐのが精一杯のところだ。今度の防衛ラインは松島－雄勝峠－有耶無耶関跡の間だが、一体いつまで持ちこたえられるか……特に日本海側へ出てきた勢力が奥羽線沿いに来るか羽越線沿いに来るかが判らんから、こちらの兵力は分割されてしまう。このあたりは日本の穀倉地帯で、そろそろ刈り入れの時期だ。今後の食料事情に深刻な影響を与えるのは免れまい。

コタキナバルの状況もひどくなりつつある。連中、フィールドが自分たちの方に来た途端に元気になりやがった。連日連夜の空襲の他にも、基地のそばまで寄ってくるゲリラが、森の中から追撃弾を当てずっぽうにぶち込んでくるお陰で、機体の地上破壊率がウナギ昇りに上がっている。士気の低下もひどい。先が思いやられるな。

《空母アイゼンマオアー》

ウンケル中佐：敵の艦隊は出てこなかったものの、上空支援での戦闘はひどかったな。敵の戦闘機も航続距離に余裕ができたせいで派手にけんかを吹っ掛けてくるし、またその連中の技倆が一枚上と来た。正規軍と同居してはいるが、我が部隊の戦力不足は目に見えてハッキリしている。今後これをどう改善するかが問題だろう。

作戦参加者の状態 (SD:撃墜機数 BS:爆破目標数 SP:評価ポイント OP:作戦参加回数)

プレイヤー	Sqn.	乗機	愛称	キャラクター名	S	D	B	S	S	P	O	P	階級	状態	機体
岬当麻	0 1	H nt	Shoot	ブルーベイカー	0	2	1	1	5	少尉	生還	少破			
	9 9	H nt	SHANGRILA	相原一葉	0	0	8		4	准尉	軽傷	少破			
	E 1	F 4 D	Z Z G	ルー・ルカ	1	0	5	7	1	8	大尉	生還	少破		
	E 1	F 4 D	シルフ	ディードリット	2	0	5	7	1	8	大尉	軽傷	少破		
篠原崇	0 1	H nt	シュタイナー号	伊集院 晓美	2	0	0	3	1	准尉	軽傷	少破			
	0 1	H nt	スィート・ミカ	藤村 美香						中尉	戦死				
	0 1	H nt	ファルツ万歳！	マンスフェルト	0	0	0	7	6	准尉	生還	中破			
	0 1	F 9 F	くいんまんさ♡	エルピー・ブル	2	0	5	0	1	6	大尉	軽傷	少破		
	0 1	J 3 5	蒼い彗星	エル＝プライス	3	0	106	2	4	中佐	生還	少破			
	9 9	H nt	ラフノールの鏡	アリン・ランシス	0	0	0	2	2	准尉	軽傷	撃墜			
	9 9	H nt	METALLICA	ラーズ=ウルリッヒ						中尉	戦死				
	9 9	J 3 2	北方のミネルヴァ	クリスティーナ・アレキサン德拉						大尉	戦死				
				ベルフィービー						中尉	戦死				
	9 9	A D	傭兵隊長	ワレンシュタイン	0	3	1	7	6	少尉	生還	少破			
井村和正	9 9	F 8 6	翠玉女伯爵	レジーナ・ライス	1	2	4	5	1	4	大尉	生還	少破		
	2 3	P 3 8	ドロップシップ	ヒーコック	0	0	0	1	1	准尉	重傷	撃墜			
	2 3	S F y	—	フォルスター	0	1	2	9	5	中尉	軽傷	中破			
	9 9	H nt	—	ホームート	0	0	1	9	6	少尉	軽傷	中破			
	9 9	G 9 1	見敵必殺	メルダース	0	2	7	4	2	0	大尉	生還	少破		
林孝始	0 1	H nt	EXCALIBUR	アーサー・ラングレン	0	0	0	6	5	准尉	軽傷	撃墜			
	0 1	S mt	S E I R E N	ルーフ・ラングレン	2	0	7	1	7	大尉	生還	中破			
	1 1	零式戦	LION HEART	ナイジェル・ブースマン						中尉	戦死				
	1 1	2 2 9	Weisse Ritter	ラルフ・ショナイダー	1	0	1	5	5	少尉	生還	少破			
	2 1	H nt	流星	カオル・ヤギサワ	0	0	2	0	5	少尉	軽傷	少破			
	2 1	F 8 6	STORMY BLADE	ジル・グラスランナー	2	0	3	4	8	中尉	生還	無傷			
	9 9	J 2	雷神	リュウジ・ホリコシ						准尉	事故				
	E 2	F J 1	SLEDGE HAMMER	キャロル・コーヴェント	1	0	0	2	1	准尉	軽傷	少破			
	E 2	F 9 F	Kerberos	マーティン・オルズ	2	0	2	8	1	1	中尉	生還	無傷		

	E 3	S b n	Hell Madonna	クレイ・コリンズ ヴィルソン・リックフォード	1	1	3 4	9	中尉 准尉	生還	少破
秋信敏男	0 2	1 0 0	—	J. E. Warnock	1	0	5 5	2 3	大尉 生還	少破	
	1 2	1 0 0	—	K. Penn	1	0	5 5	1 5	大尉 軽傷	中破	
	2 2	F 9 F	—	S. Venturs	0	0	2 2	5	少尉 軽傷	中破	
	9 9	F 8 4	—	田島 昌治	0	3	5 3	1 3	大尉 生還	少破	
菅原忠幸	0 1	J 3 5	昇竜	リュウ・シキネ	0	0	144	2 7	大佐 生還	少破	
	0 2	H n t	ライントホター	レヴィン・ファンベルンシュタイン					中尉 戦死		
	1 2	H n t	皇帝	カール・アルベルト					中尉 戦死		
	1 2	S v x	双牙	キリーグ・シマー アーサー・ベリー	4	0	4 0	1 5	中尉 生還	無傷	
	1 3	H n t	ビーナス	エリコ・マリカニ					中尉 戦死		
	2 2	1 1 9	人	ロン・シャオレン	0	3	1 9	5	少尉 生還	少破	
	2 2	F f r	王虎	ゲン・ホー・キム ギンゾウ・テル	0	2	4 6	9	大尉 軽傷	少破	
	2 2	A D	ファイア-アロー	フィラデルフィア・カーマイン	0	3	5 2	1 2	大尉 生還	少破	
	2 3	H n t	—	レイチェル・サラー	0	0	1	1	准尉 生還	無傷	
遠藤誠	9 9	F 8 4	フロンティア・スピリット	ウイリアム・ジェームス	1	1	6 6	1 3	大尉 軽傷	中破	
	0 1	H n t	ヴァイパー	J. ジャック・フラッシュ					中尉 戦死		
	0 1	H n t	ストーカー	ホルスト・ジンツァー					中尉 戦死		
	1 1	F 9 4	慈雨	五島 三四郎	0	0	8	6	准尉 軽傷	少破	
	1 1	F 9 4	Zart Wind	望月 浩二	0	0	1 0	6	少尉 生還	撃墜	
	9 9	F 8 6	ペアトリーチェ	マクレーン・シーカー	0	2	3 6	7	中尉 生還	少破	
	E 2	F 9 F	メリーセブンⅢ	ジョン・シンガー	1	0	2 5	6	中尉 生還	無傷	
	E 3	S v n	サーペンス	マーチン・ルーザー アストール・ド・ウォーリック	0	0	1 1	5	少尉 生還	無傷	
	E 3	S v n	レセマーハ	アンス・ブリリアン リュウ・ウェイ	0	1	1 6	6	少尉 軽傷	撃墜	
木村博昭	0 2	F r b	死神	ロイヤー・ナスペル					中尉 戦死		
	1 3	F 9 4	モーリントン	カルナーク・ホルン モーリン・ハット	3	0	1 1	5	少尉 軽傷	少破	
	E 2	F 9 F	メガトン・パンチ	西島 義人	2	0	2 0	5	少尉 生還	少破	
	E 3	A D	スチューター	セシリ・ヒューストン	0	5	2 7	5	中尉 軽傷	少破	
日高耕	0 2	J 3 2	グラマリエ	グウィンディロン ブロム・オベリン					大尉 戦死		
	0 2	F 9 F	ノイン・グロース・ファルケ	ウォルフガング・レオンハルト	1	0	2 5	8	中尉 軽傷	少破	
	9 9	2 1 7	＝鎌倉幕府	チュアン・マクガイア マータ・ディオ ガーン・デヴィ コンセイユ・データ	0	2	1 5	6	少尉 軽傷	撃墜	
	9 9	A D	フェス	ロッド・ギャロウグラス		5			准尉		
									中尉 戦死		
									中尉 軽傷	少破	
赤木崇敏	9 9	H n t	Divertimento	テニス・ディアボーン					中尉 戦死		
	9 9	H n t	Etude	レナルド・ウォルポール	0	0	1	1	准尉 生還	中破	
	9 9	2 1 7	Prelude	オットー・ブルンフェルス クラウス・シュベングラー パウル・ミュンツァー アルベルト・ピューロー	0	2	1 5	6	少尉 軽傷	墜落	
	9 9	F r b	Rhapsody	ウェルナー・ブラウン	0	2	1 5	6	少尉 生還	無傷	
	9 9	A D	Capricco	ルシアン・フェーブル	0	1	2 8	4	中尉 生還	無傷	
	9 9	A D	Chorus	クロード・ベルナール	0	5	3 0	4	中尉 重傷	事故	

	9 9	A D	Concerto	カール・シュレーベル アウグスト・シュレーベル ルートヴィヒ・フォイエルバッハ	1 1 5	0 1 1	1 6 8	6 6 1	少尉 少尉 准尉	生還 生還 無傷
岸谷英範	1 3	G n t	イリス	木下 藤吉郎	0	0	5	4	准尉	重傷撃墜
	1 3	G n t	エルトリアス	神無月 京子					中尉	戦死
	1 3	G n t	ソルト	田沼 沖次	1	0	5	4	准尉	重傷撃墜
	1 3	G n t	ナリス	成田 進	0	0	3	3	准尉	軽傷少破

☆申請機の略号

A 2 D…A 2 D-1 スカイシャーク 229…H o 2 2 9 A-0

P 3 8…P-3 8 J ライトニング S m t …シミターF. 1

J 2…J 2-1 ドーヴェター F J 1…F J-1 フューリー

2 1 7…D o 2 1 7 E-2 2 0 9…B v P. 2 0 9-0 1

☆申請機の価格

P 3 8…4 0 0 zg S m t …3 7 0 0 zg F J 1…3 5 0 0 zg 2 1 7…9 0 0 zg

突発性穴埋めコラム

近 代 兵 器 概 論

本居こじ

今回は艦対空ミサイルについて。

艦対空ミサイル（SAM）は、地対空ミサイルを水上艦に搭載して、うまいこと防空力を上げられないかという計算によるものである。これが成功すれば、空母がなくても効果的な広域防空力を得られることになる。

初期の艦対空ミサイルの開発は、イギリス軍がリードしていた。これは日本軍の「特攻機」に原点がある。スエズを渡り、インド洋を越えてはるばる沖縄戦に参加してきたイギリス海軍の艦艇が、飛行機の体当たりによって大損害を受ける。修理するにはまたやっかいな手順を踏まなければならない。これは他の戦闘でも変わらないが、よりもよって「体当たり」などという防ぎようのある手段で戦闘不能になるほどの損害を受けることは、やはり黙認するにはうるさすぎる問題だったのだろう。

ミサイルの当初の目標は、そういうわけで航空機、しかも大型の爆撃機だった。ここでまた「ソ連の爆撃機が大挙してやってくる」という夢物語が頭をもたげてくるわけである。この「大挙してやってくる」敵攻撃機の中に一部でも核爆弾を持っているものがあったら……その破壊力は想像を絶する。国家の威信をかけた大艦隊も、一瞬にしてオシャカである。それゆえ命中精度も大編隊に向けあいまいにで、弾頭は一発で複数機を落とせるよう大型のものになった。米海軍ではそれでも足りずにタロス、テリアの核弾頭SAMを配備した。ここまで来ると過剰防衛のような気もするが、当時はそれでも不足だなどという物騒な意見が平然と語られたのである。なにしろ千機単位でアメリカ本土へ押し寄せる、核爆弾を持ったソ連機である。そういう訳で現用のスタンダードSAMも、一部は核弾頭だ。

やがて対艦ミサイルなどという、物騒な代物が現われた。低空を音速で飛来し、こちらの弾を回避もする、賢い「特攻機」である。一発相手に機銃の弾幕を張るのは頭が悪い。という訳で現われたのが、短距離用の、精度の高いミサイルである。シースパローは一番有名だろう。台湾にはシーチャパレルもある。在来ミサイルの改修型が多いが、これは必要に迫られて開発を急いだ結果だろう。運が悪ければ戦艦も一発でノックアウトされるような代物が、小国が持つような小さな哨戒艇にも積めるようになってしまったのだから。

なお、艦対空ミサイルは誘導方式によっては、艦隊艦ミサイルに転用することも可能である。セミアクティブ・ホーミング方式なら、誘導波を目標艦に反射させ、これを追尾するようにすればいいからだ。

現在艦対空ミサイルの開発は一段落しているが、これは目標となるミサイルの開発が停滞気味だからである。また、ソ連機来襲の妄想が崩壊したためなのも、言うまでもない。

☆ 戰果報告

オイラー大佐：まずまずの戦果が得られている。こちらは好きな時を選んで出撃して、好きなところから攻撃し、そして燃料がなくなるまで存分に戦うことができる。諸君も海越えの苦労がない分気楽にやれるだろう？

また、陸軍特殊戦部隊が基地のそばまで潜入して、そこへ迫撃砲弾を打ち込む作戦を開いている。あの中にあるものすべてが目標だから、照準をつける必要がないわけだ。敵はこれらの対応に手一杯で、前線を押し込むまでには至っていない。

マイヤーズ中佐：訓練は無事終了した。いよいよ今月からは実戦任務に入る。命令はおつて伝える。

作戦参加者の状態 (SD:撃墜機数 BS:爆破目標数 SP:評価ポイント OP:作戦参加回数)

プレイヤー	Sqn.	乗機	愛称	キャラクター名	S	D	B	S	P	O	P	階級	状態	機体
笠原和子	0 1	M 1 5	Gold	J. ウォーカー	1	0	2				1	准尉	生還	無傷
	1 1	M 1 5	Twenty Five	S. アンバサダー	1	0	2				1	准尉	生還	無傷
	9 3	H u r	BRITISH	C. モカ	0	4	4	5			5	大尉	生還	無傷
	V X	A U	Gin Fizz	G. ビーフィータ	0	0	1	1			2	少尉	生還	無傷
正宗征士	0 1	F 8 0	—	マイク・ケリイ	0	0	1				1	准尉	生還	無傷
	0 1	F 8 0	—	ジム・ガーヴィー	1	0	2				1	准尉	生還	無傷
	0 2	F 2 H	一日司令	真尾 まお	1	0	2				1	准尉	生還	無傷
	2 1	M t r	—	ミラード・ワシントン	0	2	5				1	准尉	生還	無傷
吉楽征二	0 1	M 1 5	—	K. ゲルハルト	1	0	2				1	准尉	生還	無傷
	0 1	M 1 5	—	K. スレッグ	2	0	3				1	准尉	軽傷	少破
	9 3	1 1 0	—	吉田 剛	0	6	3	2			4	中尉	生還	少破
				上杉 建男			2	0			2	少尉		
	9 3	M r d	ポンジュール!	ラース・レダ	0	5	4	9			5	大尉	軽傷	少破
				グエン・キン			3	9			4	中尉	重傷	
下永弘典	1 2	M 1 5	G - Fire	ダーヴィド・ラッセン	0	0	5				4	准尉	軽傷	少破
	9 3	A U	ユリウス	レオニード・ユースポフ	0	5	3	1			5	中尉	生還	無傷
	9 3	A U	C - Thunder	ロドス・ヴァルカム								大尉	戦死	
	V X	A U	D - Blast	ユーリイ・ロマノフ	0	0	1	7			5	少尉	生還	無傷
	V X	A U	E - Shoot	ウイスカー・オーゼル	0	0	1	1			2	少尉	生還	無傷
	V X	A U	F - Bug	ジャック・フロイト	0	0	1				1	准尉	生還	無傷
山田国見	1 2	M 1 5	—	インクリーズ・メーザー	1	0	2				1	准尉	生還	無傷
	1 2	M 1 5	—	ウイリアム・ウイルバウオース								中尉	戦死	
	1 3	M 1 5	—	ジェラール・グランヴィル								中尉	戦死	
	2 2	B 2 6	Vampire β	トーマス・アクイナス	0	5	3	4			6	中尉	軽傷	少破
				ジョン・ホワイトハースト										
				ヴァイン・シュトライザー				1	8		4	少尉		
	2 2	F 9 F	—	ニコラス・ワイスマン	0	5	3	6			6	中尉	生還	無傷
	2 2	F 8 4	—	オマール・ハイヤム	0	1	3	8			6	中尉	軽傷	少破
	9 3	A U	Wraith	ジェームズ・キングズベリ	0	3	1	8			2	少尉	生還	無傷
	9 3	F 8 4	Grozny	フィーローズ・シャー								少佐	戦死	
永山真時	9 3	B 1 N	Awkwardness IV	カール・ドルス	0	5	5	8			8	大尉	生還	無傷
				レオン・ブルームハルト				3	6		4	中尉		
	V X	A D	Mermade	キャロル・グラック	0	0	4	6			7	大尉	生還	無傷
アーヴィング・マーティン	1 1	M 1 5	カルカラ・ノート	リュー・チャン・バイザス								中尉	戦死	
	1 1	M 1 5	ソード・ニエン	ドネリコ・バルモンダーン								中尉	戦死	
	1 1	M 1 5	ブリング・マーネル	ソリック・アデナン・ローマス	0	0	1				1	准尉	軽傷	少破
	1 1	M 1 5	リラーナ・ドアーテ	デルバル・モン・クレスト	1	0	7				5	准尉	生還	少破
	9 3	A U	アビ・エル・ドアーテ	デギル・ニカーン	0	0	2	4			6	少尉	生還	無傷

9 3	A U	ガルダル・ムーンナル	カイザン・デオ・ジャイカ	0	2	1 6	6	少尉	軽傷	少破
9 3	A U	ズイエン・マル・ゾーラ	ナール・アリイ・ガウディ	0	1	1 7	5	少尉	軽傷	少破
9 3	A U	モー・ナル・マトリクス	サガイサン・ソルディ・ムーン	0	0	1 7	3	少尉	軽傷	撃墜
V X A D	—	—	ショマニ・ブリニエ	0	0	2 6	6	中尉	生還	無傷
V X F 9 F	ゴーラ・オーム	ゴナル・バティ・メールバーテン	—	0	0	4 6	5	大尉	生還	無傷

☆申請機略号

I 1 2 … I 1 - 2 m 3 シュツルモビク Typ … タイフーン Mk I B

1 1 0 … B f 1 1 0 G - 4 M r d … B - 2 6 G マローダー

B 1 N … ポートウール II - 1 N

次回の作戦

《イザベリア軍》

ガルマン大佐：コタキナバルの方から片付ける。陸軍は今までは兵力がジリ貧になるのは避けられないと見て、敵の本拠地サンダカンを徹底的につぶすこととした。場合によっては「富嶽」が核装備で出撃することもありうる。軍港、滑走路、兵舎、その他諸々の軍事施設は言うに及ばず、市街地もろとも焼き払う。なお我々は、全軍の先陣を切って第一波に出撃することが決まっている。後続の攻撃機や、降下部隊のために脅威を少しでも殺ぎ落とすのが目的だ。目標は自由に決めてよい。

日本派遣部隊は松島に陣取って、引き続きソ連軍の進攻を少しでも遅くさせる。もはや死守などということは考えなくてもよい。とにかく、避難と外交交渉のための時間稼ぎに努めろ。幸運を祈る。

〈空母アイゼンマオアー〉

ウンケル中佐：ローテーション配備で、日本派遣艦隊のお鉢が我がアイゼンマオアーに回ってきた。我々は日本海へ移動し、イギリス海軍空母「アーク・ロイアル」と共同で日本沿海を警戒する。また、対地部隊は羽越線沿いの地域を定期的に飛行して、ソ連軍がこのラインで進攻してきたときに備えろ。国連軍司令部は、奥羽線ラインで来る確率は極めて低いと見ている。ほぼ 100% こっちに来ると見て間違いない。

☆部隊編成

〈三沢〉

飛行第 7 1 戦隊 〈迎撃〉

第 1 中隊 … 第 1 波 第 2 中隊 … 第 2 波 第 3 中隊 … 第 3 波

飛行第 7 2 戦隊 〈対地攻撃〉

第 1 中隊 … 第 1 波 第 2 中隊 … 第 2 波 第 3 中隊 … 第 3 波

〈コタキナバル〉

飛行第70戦隊（99独飛護衛）

独立飛行第99中隊（爆撃）

〈空母アイゼンマオアー〉

第1飛行隊…艦隊防空 第2飛行隊…日本海沿岸対空哨戒

第3飛行隊…羽越線沿い対地支援

《イエール軍》

オイラー大佐：引き続きコタキナバル空襲を行う。敵軍は度重なる襲撃によって士気の低下を見せ始めており、退却も時間の問題であると予想される。なお、92RWは友好的な中立国の商船を使って北海道へ移動、ソ連軍の進撃に協力する。

〈空母ストロワヤ〉

マイヤーズ中佐：諸君。お待ちかねの実戦任務だ。我々はこれより函館に移動する。日本海に入ることが不可能であるため、太平洋を大きく迂回しなければならない。航程は一ヶ月弱に及び、途中ではイギリス海軍などの妨害も予想される。しかし現在ソ連軍は足の長い戦闘用機が不足しており、海上にいる我々の、横からの支援は必要不可欠である。我々は必要とされている。諸君の二ヶ月に渡る訓練が、ダテではないことを示すのだ。

★部隊編成

〈サンダカン〉

90RW（コタキナバル制空）

901RIS…第1波 902RIS…第2波 903RIS…第3波

91RW（92・93RW護衛）

911REFS…第1波 912REFS…第2波 913REFS…第3波

92RW（三沢へ移動）

※ 戦闘任務はなし

93RW（コタキナバル攻撃）

931RAS…第1波 932RAS…第2波 933RAS…第3波

※90RWの行動は、必ずしも91・93RWの行動と同調するとは限らない。

※92RWに属する者は、三沢に到着した時点で無条件にBS2を得ます。

〈空母ストロワヤ〉

VF（艦隊防空） VA（敵艦隊攻撃）

※ストロワヤ機動部隊が接敵しなかった場合、全員BS1を得ます。

REST TIME

A C T . 2 8

N O T E

※今回の参加・投稿物締切りは11月15日(必着)です。

※今回より、機体レンタル制度をスタートします。これは1万zg以上の機体を、毎回定価の100分の1の額を支払うことによって「貸し出す」ものです。修理代は不要です。ただし撃墜された時には、上からお許しが出るまで任意の空母航空隊に強制配属されます。またその時、乗機は自費で買わなければなりません。

今月の動き

○1958年8月20日の「人民日報」：同志毛沢東主席は、従来までの「ユーゴスラビア修正主義批判」から、フルジチョフ・ソ連首相直接批判へ路線を変更した。偉大なる同志毛主席はフルシチョフ首相を資本主義に徒に喧嘩を売る小心者と断じ、近いうちにソ連との交流を制限する旨を表明した。

○同30日の「プラウダ」：同志ソ連軍は本日、西側連合軍の拠点三沢基地を占領、南下作戦のための重要な拠点を手に入れた。これにより我軍は本州北部に広範囲な空軍力を展開することができ、いよいよ有利に対資本主義闘争を展開するであろう。

○同31日の「朝日新聞」：日本政府は本日朝8時、東北地方全域の住民に対して避難命令を発令した。また同時に、ソ連軍司令官に対して停戦を要請した。各国軍は無防備都市宣言によってより南部の各都市に向かって移動している。

○同31日の「朝日新聞夕刊」：ソ連軍はわが国の停戦要請を無視して進撃を続け、秋田県と岩手県全域を制圧、一部は仙台の北数十kmまで迫っている。本日正午には、酒田市が無防備都市宣言を発した。

Q & A

Q1：ファイアストリーク一発136kgだから4発だと544kgだ、シーヴィクセンFAW. 2の搭載力は450kgだ。別にいいんですよねファイアストリーク4発つんでも。

A1：その通り。ミサイルだけは、合計重量が搭載力以上になつてもつめます。ただし、何か他のオプションと混載する場合は、搭載力以内に収めなければなりません。

Q2：イエールの機体リストにF-104Gがのっていますが、全天候戦闘機のところにはF-104Aになつてます。どちらですか？

A2：両方です。文書作成時に手を抜いて複写を多用したため、こうなりました。

Q3：イエール空軍ってナパームも作れないんですか？太平洋戦のころはあったと思うが。

A3：さよう。革命でこうなつてしまつたのです。

Q4：アイゼンマオアーはAS15でイエールが沈めたのと同名ですが？

A4：同じ艦ですから。……と書こうとして嫌な予感がしたので調べてみたら、実は「蒼龍」は深い深い海の底なんですねー。サルベージもちと困難だし、生き残り艦艇の「瑞鶴」に訂正、これを二代目「アイゼンマオアー」とします。

「Blowers」関係の告知

※11号がそろそろ発行されます。いつも通りの300円小為替+175円切手です。

Voice of 参加者

『そうか、次はベトナムなんですね。ということは、A-7やA-6なんかが出てくるわけですね。私はA-7一押しなので、A-7が配備される国（おそらくイザベリアでしょう）に鞍替えします。なんといってもA-7はベトナムの主役ですから。ところで、前回の「スピードのお化け」ですけど、MiG-OOはMiG-25というのはすぐに判つたのですが、もしかしてO-O2Aというのは(Y) F-12Aのことなんでしょうか? SR-71の戦闘機バージョンの。アレって実戦で役に立つかどうか疑問ですよ。ただ速いだけだし（その点で言えばMiG-25も同じですけど）。それから質問があるんですけど、ベトナムになったら、またゲーム名は変わるのでしょうか？』

（イエール・神奈川県・吉楽征士）

『皆さんもう好い加減お気付きでしょうが、その通りです。役に立つかどうかについては、AS時代のF2Aに始まって、結構たくさん「?」な機体は出でますからね。疑問はもっともですが、考えても始まりません。……ナム戦の主役というと、私はどうしてもA-4と、それに増してA-1の方が先に立つのですが。A-7なんて、後半に出てきて搭載量に物を言わせたソーティ数で名を売ったようなもんだし（と私は思う）。

あとゲーム名ですが、これは変わります。決定事項で、既にその名も確定しています。

『イザベリア軍もそろそろレベル0のジェット艦載戦闘機が欲しいとこですね。あんまり強化しすぎると、バランスが取れなくなる恐れがありますけど。FJフュリーかアタッカーあたりが欲しいところですね。しかし、そうなるとイエールに艦載機がない以上、苦しくなりそうな気もします。なんせ、西側の旧式艦載機しかないからねえ。だから最初からイザベリア軍にレベル0艦載ジェットを設定していないのかな。』

（イザベリア・神奈川県・林孝始）

『FJは-4Bあたりを少尉用に出してもいいなーとは思っているのですが、面倒なのでやらないだけです。……現在レベル0に艦載機がない理由は、「経験を積まないと空母乗りにはなれない」というのを表現したかっただけです。あまり深読みしすぎないように。』

アタッカーって……あの使えない奴を!?あんなのなら、まだシミターの方がいいって。シミターもそれほどいい機体ではなかったけどね。

『しかしジェット機は描いていてレシプロ機ほどおもしろくないですわエ。前回のB-57は自分でもあまり良い作品ではないと分かっていましたが、描き直すだけパワーと時間がありませんでした。』

P.S. 昔、本でF-86Fの写真を見てすごくカッコイイと感激したことがある。しかし科学館に展示してあるF-86Dを見てショックを受けた思い出があります。

（イザベリア・愛知県・井村和正）

『……ってねえ。あのB-57Bだって私みたいなトーシロから見れば、「な、何じゃコリヤあ！」ってぐらい凄い絵ですよ。あのカケアミはそう誰にもできるシロモノじゃないし、……うーん。向上心も場合によりけりじゃないかなあ。』

私はつい最近まで、F-86Fがセイバーで、D型はまた別の機種（他のナンバーの機体）だと思ってた粗忽者でした。実際、設計上はほとんど別ものの機体なんですがね。でも、D型見て受けたショックって、どんなのなんだろ。悪い方みたいだけど……私は、D型はD型でまた別の魅力を感じますが。F-86って言えばF型の方がまずイメージに出てきますけどね。

（リュウ・シキフネが）ついに大佐になってしまいました。これも皆様のお陰です。これからもよろしくお願ひします。イエールの方にもよろしく！

（イザベリア・秋田県・菅原忠幸）

（…）…うなんだよなあ。マジで殺そうとしても死なないくらいに育っちゃったもんなあ。このシリーズ始めた当初は、そんなに生き残るキャラが出るとは思ってもみなかつた。こちらこそ、これからもよろしく。

（…）しかし、仮に日本が落ちたらその後の世界はどう変わって行くのでしょうか？そうならないように頑張っているのですが、最近どうも勝てない。それに、収入の割に、機体価格が高いので、一度大破なり、撃墜されると、戦線復帰が難しいし。借金も、限度額が前回のままで低いし。あと、今更ですが、ミサイル搭載時の収入の計算がいまいち理解できていません。単純に、撃墜数をミサイル搭載数に割り当てればいいのですか？

（イザベリア・神奈川県・遠藤誠）

（…）「割り当てる」というのが、この場合どういうことなのか分かりませんが…例えばミサイル2発を積んで撃墜数3だったら、ミサイルのボーナスは2機分。残りの一機分にボーナスは付きません。限度額については据え置きます。一度範囲を拡大すると、キリがなくなるので。これはあくまでも保険程度に考えておいてください。

機体価格については対策を今回公示しました。後手に過ぎるような気もしますが、何もないよりはマシでしょう。日本が落ちたら…その時は、韓国とイザベリアが地図から消える日も時間の問題、てことになるんだろうなあ…やっぱり。でも、実際だったらとっくに第3次世界大戦に突入してて、核爆発があっちやこっちやで起きてるはずだよな…（…）イザベリアも標準機がF-86 FやF9 Fになりませんか？

（イザベリア・宮崎県・日高耕）

（…）ハンターじゃダメですか？確かに私もF86やF9 Fは嫌いじゃないのですが、だからと言ってこれを標準機にすると、えらく当たり前すぎて面白くないんですね。それにF86は、普通言われてるほどいい飛行機ではないですよ。アメリカさんの宣伝と朝鮮戦争の「実績」のお陰で、最高のドッグファイターかのような幻想を抱いてしまいますが。

ショート・ショート

☆71、72飛戦へ向けて打電。

最近、ソ連の勢力が強く、我トイザベリアが押され氣味だが、何とか、この事態を解決しないと、それこそ日本はソ連に取られてしまう。そうなつた時、ソ連は脅威ではなく、絶対的存在として君臨するであろう。そうはならないように、卿らにももう一ふんばりしてもらいたい。

向こうもそろそろ限界に近づいている筈、やられた分は、倍にして返してやれ！

では、健闘を祈る。

（…）ショートショートの範疇に入るかどうかは疑問だけど、分類が難しいのでこっちにブチ込んでしまいました。さて…、応援空しく、今回も西側連合軍は敗退です。次は仙台攻防戦まで行くのかな？せめて三沢で止めてもらわないと…。中ソ対立が表面化した今、イエールがどっちに付くかも重要な要素ではありますナ。

P B M A — Strikeの歩み

「ルールブックにある分だけでは物足りないので、是非やってくれ」という意見が結構でてきたので、やります。

PBM「A—Strike」は、1942年8月半ばに行われた、イエール空軍によるイザベリア海軍基地空襲によって始まりました。歴史上はこの数年前にも両国間で小規模の紛争があり、イエール敗北で終わっていたのです。当時のイエールはアメリカ合衆国から独立したばかりのアメリカ寄りの王政国家で、日本を牽制する目的から、アメリカから対イザベリア戦の再開を強く要請されていたのでした。見返りにイエールは、アメリカ製新兵器の数々を安く手に入れることになりました。

…が、戦争は緒戦期からイザベリア側有利に進みました。両国とも互いにやりあうには十分な物資と工業力を備えていて、日米戦ほど極端な状況にはなりにくかったです。そして、イザベリアはイエールの来襲を予め知っていました。そこで響いたのが、「親分」との地理的関係です。一方は東シナ海を南下するだけですみましたが、もう一方は延々太平洋を横断しなければならなかつたのです。しかも東シナ海には史実と異なって、重巡を頂点とする対潜戦に長けたイザベリア海軍が君臨していました。

またイザベリアは旧くからドイツ工業界との結び付きが強く、優れた工業技術力が栄えていました。極端な例をあげると、四式戦疾風の設計要目を入手、先に量産化して本家中島ヘリーケンしたという「実績」もあります。ドイツ・日本の両軍用機とも、設計図さえあれば、すぐにでも量産体制に入れたのです。イエールもアメリカからの技術導入に積極的で、これと同様の能力は備えてはいましたが、明らかに付け焼き刃の観は拭えません。

さて、イザベリアは継戦資源と軍事技術の提供を条件に、日本海軍から空母4隻を獲得することに成功しました。この技術の中には後に述べる「塔」の資料もあり、戦況が悪化しつつあった日本にしてみればのどから手ができるほど欲しいものだったのでしょう。この時対敵偽装作戦として行われたのが、「ミッドウェー海戦」（史実と多少ズレています）です。ハリボテの擬装艦を使って米側に赤城・加賀など空母4隻を沈めたと思い込ませ、裏でこれを移管したのでした。作戦は成功、以後4隻はイザベリア海軍艦として活動します。そしてこれはやや遅れて連合国側の察知するところとなり、米英軍もイエールに旧式空母（レキシントンなど）を供与しました。情報戦のために彼らも似たようなことをしていたのです。彼らはこれを自軍で「幽霊部隊」として使用するつもりでしたが、これで隠し場所に困ることもなくなり、いい厄介払いになったともいえました。

一連の「だましあい」の後、なんとイエールで反乱が起こりました。イエールの王政はもともとアメリカ統治から独立したあの政権抗争のごたごたで生まれたもので、不満は多かったです。その反乱は、南部から共産主義者によって始まりました。火の手は一気に広まり、イエール王はついに、「降伏してイザベリア軍に彼らを潰させる」という方法を取ることにしました。イザベリアは公室を頂点とする、封建主義の香りが強く残った國柄で、共産主義を容認することはありえないからです。かくて1943年8月、停戦。

停戦後はイエール王の目論見通り、共産主義勢力は傭兵（PC）による指導者暗殺などの過程を経て一掃されました。そして軍事裁判によりイエール王は処刑。ここまでは王も

予測していませんでしたが、さらに予想外の展開を招きました。アメリカによる工作も多分にあったのですが、反イザベリア運動が急速に盛り上がったのです。同時多発ゲリラによってイエール占領軍は瞬時に無力化され、再びイエール対イザベリア戦争が勃発したのでした。今度は米軍の前線もグッと近くなっていたのでイエールもかなり有利だったので、イザベリアが積極的に連合国への技術を導入（機材を含めて）していたお陰で、相対的な関係にはなんら違いが生まれなかつたのでした。もっとも物量的には大きすぎる差が生まれていて、すぐにイザベリアは連合国艦隊に包囲されてしまいます。

ここで登場したのがイザベリアの「塔」です。これは特殊な鉱石に強力な磁場を与えることによって得られる指向性の強いエネルギーを、電離層に反射させて上空から目標に叩きつけるものです。イザベリアで遺跡発掘によって発見された古代技術の一つですが、そのほとんどは今もなお謎のままです。破壊力から広域破壊兵器として使用されていますが、どうやらそれが本来の使用目的でないことだけは確かなようです。使用する鉱石は希元素、構造が巨大で建設に莫大なコストがかかるため一基つくるのがやっとで、しかも一度使用すると粉々に崩壊してしまうのが欠点ですが、イザベリア軍はこれで米海軍のハルゼイ機動部隊を瞬時に消滅させ、講話をはたらきかけました。

この頃には日本の敗色も隠せなくなっていました。成都から北九州へB-29が連日押しかけましたし、台湾も失陥しました。まして日本は「塔」のような決め手を何一つ持っていないません。かといってこのまま降伏すれば多大な賠償金を取られるのは明白です。そこで日本政府は、多少有利に戦っているイザベリアへ財産を極秘利に移し始めました。その中には、来るべき再興の日をかけて、海軍の残存主力艦も含まれていました。陸軍の戦車は、低性能故に引き取りを拒否されたという笑えないエピソードも、裏設定にはあります。

講話条約はスムーズに締結されました。発効は1945年3月。日本軍は完全に解体されました。イザベリアの方は「塔」の技術提供を条件に解体を免れたのでした。ただし敗戦国ということで、形式的にはイギリス軍の監督下に置かれることとなりました。アメリカ軍の方は「塔」による損害がひどく、あちこちに占領軍を配する余裕など残されていなかったのです。日本占領軍もそのほとんどはイギリス軍でした。わずかにドイツ占領軍でアメリカは体面を保つだけです。このドイツは、ヒトラーがレーダー元帥率いるクーデター派に暗殺されて1月に降伏しています。

その後はアメリカなど列強が次々に塔の実験に失敗、核兵器の開発に集中するなどの動きをからめつつ史実通りに展開、植民地の独立でイギリスは国力を衰退させ、徐々にアメリカが世界の覇権を握っていきます。

そして、SONIC DIVERの時代へ辿り着いたのでした……。

お 話 て

まことに申し訳ございませんが、空技廠の財政再建のため、10月はすべての活動を停止させていただきます。ASの次回リアクションは11月25日ごろ発送の予定です。

編 C 後記

菊：今月はどういうわけかもの凄い金欠に見舞われて封筒が買えず、泣く泣く発行日を遅らせるという非常事態を惹起させてしまいました。申し訳ございません。

岬：金欠。今の空技最大の敵は、これかもしれない。何せ予備兵力がないからなあ。

笠：ソ連軍がちょっと強すぎないかなー、と思いつつも、なぜか楽しい今日この頃。

宇：提督の胃炎再び。好物の牛丼も最近あまり食べたがらないし、こりゃまたヤバいか？

榛名とはるな

本居こじ・作

ACT. 12 The Outbreak of Coup d'état.

榛名は大分低くなった太陽を横目に見ながら、無線係のマイクを取っていた。

「じゃ、まだ何もそっちでは起きてないのね？」

「まったく何も」はるなが軽く溜息を付いたのが、榛名にも聞こえた。「一体どうしたつてのよ、榛姉？」

「訳は後で話すから」榛名はそこで一息切った。「何か艦載機で、すぐこっちに来て頂戴。大急ぎで！」

「……よくわからんけど、解った」はるなは答えた。「なるべく早く行く」

無線が切れると、榛名は自分の椅子に座り込み、背もたれに深くよりかかって天井を見上げながらしばらく何か考えていた。やがて何か思い出したように、肘掛にかけてあつたヘッドセットを取り上げ、無線係にこう言った。

「『サラトガ』の麻美に……宇垣艦隊につないでちょうだい」

彼女はそう告げると、何度も軽く目をもんだ。

それよりしばらく前のこと、まだ榛名が風紀委員に捕まっていたころに、真鶴M S 「連合艦隊」の旗艦、旧日本海軍「大和」（改）型戦艦、「箱根」上で。

「部長」参謀（=副部長）の鳴田が、紙片を手にして司令室へやってきた。「極秘伝です」「誰から？」

「中3の栗田……MFの、妹の方ですが」

「ふうん」彼女は茶封筒の封を破って中のレポート用紙に目を通した。「……」

「なんて書いてあるんです？」

「風紀委員が何か事を起こすかも知れない、ですって」

「で、どうします？」

「放っといていいわ」山本は笑った。「あの連中に、そんなことできる訳ないでしょう？」

「確かに」鳴田はどこか、影のある笑いを浮かべた。

はるながF/A-18Aで「信濃」へ出発したころ、榛名の艦隊の右側には、米海軍CV「SCB-125A（角形エンクローズド・バウ）改修型エセックス」型空母をメインとする、比較的大規模の艦隊が現われていた。榛名が先程呼び出していた、宇垣の艦隊である。

大規模になっていたのは、彼女自身の空母とその護衛2隻の他にも、彼女の「子分」の艦がいたためである。宇垣は中学の「裏の世界」を仕切っており、その中には自分の船をもつ者も当然いるわけだ。

「早かったわね、麻美！」榛名は艦橋の中から、隣の艦の宇垣に呼び掛けた。」「有難う！」

「礼には及ばねえよ！」威勢のいい宇垣の声が返ってきた。「それより何の用だ！そんなに急いで！」

「……ごめん麻美。悪いけど、ちょっとこっちまで来てもらえない？」

「ああ、別にいいよ。どうせそっちはヘリが駄目なんだろ？」

「ごめん！」

「……今行く」

とりあえず無線は切れた。

その時だった。主港から、緊急電が入った。それを受けた榛名は、力を失ってその場に座り込んだ。

「校内に暴徒乱入。生徒は全員男子部へ退避せよ」

電報には、そうあつた。

直前、最初に押さえられたのはMFのベースである。そしてそれに少し遅れて、停泊中だった「箱根」を大小合計30隻余りの艦艇が取り囲み、その乗員があっけに取られている間に10人ほどのM16で武装したMG（陸上）が強行乗艦し、その足で司令部を制圧した。

後は雪崩式である。

ほとんど秒単位の差で、次々と主だった拠点が押さえられた。

先刻の判断の結果を、山本は目の当たりにしていた。ビニルロープで後ろ手にしばられ、足も同じように縛られた上で、鋸びたパイプ椅子に腰をくくり付けられていた。

彼女の目の前には指揮卓があり、その向う側、自分の席——グレーの事務椅子だが——だった場所には、よく知っている人物が足を組んで座っていた。嶋田だった。「とんだ茶番ね……」山本は恨めしげに嶋田をにらみ、呟いた。「不覚だったわ……あなたがクーデター派の一員だったとは」

「その茶番にひつかかって、まるで何も対策を打たなかつた先輩が悪かったんですねわ」

そう答えると、嶋田は口に手をあててホホホ、と笑つた。

「今頃……どこまで進んでるの」

「そんなこと、先輩にはどうでもいいこととしてよ」

「一体何が目的？」

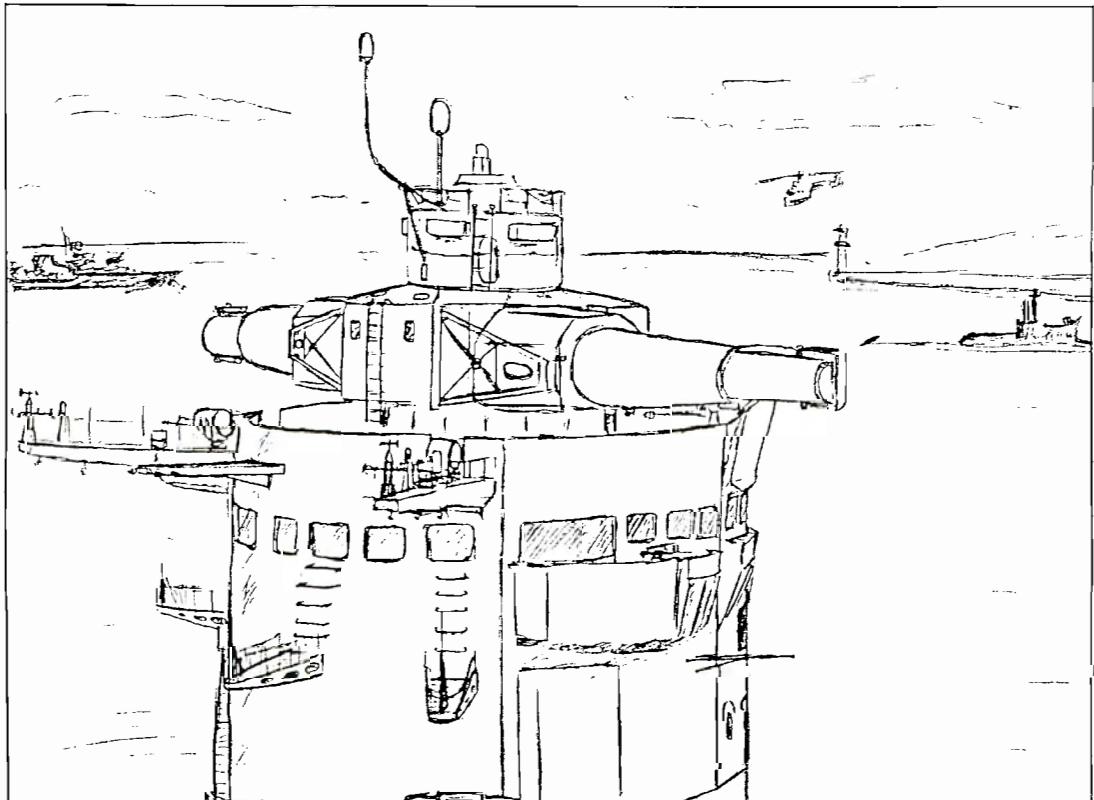
「この学校の、異常な体質を改善すること」嶋田の目が燃えた。洗脳されているな、と山本は悟った。「一クラブが、学校の生徒会活動をも掌握しているという、この不健全な体制は、早急に打破せねばなりません」

「生徒会が模型部に掌握されていると見るから問題なのでしょう？」山本は落ち着いた口調で、さとすように言った。「生徒会が模型部を掌握していると見ればよろしいんじやなくて……。それにそんな事で『クーデター』なんて……大げさにも程があるわ！」

「勅使河原先輩は、このクーデターには大きな意義があるとおっしゃつたわ。現在の体制を打破して、新秩序を形成することにより、より一層私たち、そして学校が発展し、ひいては社会の向上につながると……」

「馬鹿らしい！」山本は吐き捨てるように言った。「あのヒトラーが言いそうな事だわ！」

司艦は改大船型(改OII)が開拓されたりする。新開港部へ移る頃の年譜



同じころ、寮の数少ない個室の一つである勅使河原の部屋には、何やら深く沈み込んだ空気が漂っていた。窓は厚いカーテンが引かれて、そこから微かにもれるわずかな光が、唯一の室内の照明だった。

勅使河原は椅子に腰掛け、物思いにふけっていた。暗いせいで顔はよく判らない。彼女は、誰かが戸をノックするのに気付き、顔を上げた。

「誰か？」「三河でございます。よろしゅうございますか」

下手な、それでいて強気な口調の問いかに、懲懃な調子の答えが返ってきた。

「入れ」彼女は戸の方を向いた。

三河と名乗ったその生徒は、中に入って後ろ手に戸を閉めると、すぐに戸口で片膝をついて頭を下げた。

「何か用か」

それを椅子から見下ろし、冷たく彼女は話しかけた。

「は、拠点の制圧はほぼ完了いたしました。あとは男子部のみにございます」

「そちらはどんな様子か」

「現在大和の艦隊が向かっております。……男子部には現在、まったく抵抗するものはおりません。時間の問題でございましょう」

「大和 霧絵か」「御意」

「今のところ私に刃向かう者で、もっとも有力なのは誰か？」

「ほとんど我々の手に押さえられておりますが……」三河は急いで自分の頭の中を捜した。

「……栗田 榛名と宇垣 麻美あたりでございましょうか」

「栗田と宇垣……」勅使河原は、しばし思案をめぐらせた。数分の後に、彼女は再び口を開いた。「そいつらは捨ておけ。大和はすぐに呼び戻せ」

「しかし規子様、男子部は真鶴第2の拠点でございますが？」三河はキツネにつままれたような顔つきになった。「よろしいので？」

「だからこそ、だ」勅使河原は余裕ありげに笑った。「多少遊びがなければ、我々の仲間も不服であろう？一度なぶりものにしなくては！」

「はあ……」

「私としても、あっさり潰れられては面白くない。せいぜいあがかせ、しかしる後に徹底的に料理してくれる」

「……」

「何をしている。早く大和に指示を出せ……作戦は第二段階へ移行せよ」

「は！」

三河は立ち上がって深く一礼し、急いで部屋を出た。

勅使河原は含み笑いを始めた。すぐにそれは哄笑となり、最後には爆笑となつた。彼女には、これから展開が、絵のように鮮やかに、思い描かれてきたのである。

「おやあ？」「サラトガ」搭載のE-1Bトレーサー・早期警戒機上で、「敵」艦隊を監視していた対地レーダー当番は、目標がスコープ上で反転したのを見て思わずそう言った。

「何のつもり、これ!?」

「どしたのよ」隣の対空レーダー当番がのぞき込んだ。「……変ねえ」

「一応連絡しとく？」「そうね」

「反転した？」連絡を受けた榛名は、先の当番と同じような反応を示した。「宣戦布告までして？」

「ああ、本当らしい」ラジオの向こうの宇垣も自信無げだ。「トレーサーの連中の話からしか情報無えから……」

「誰の艦隊？編成はわかる？」

「大和先輩の艦隊らしいよ。空母2、戦艦2、重巡3、ミサイル駆逐艦15。どうする、攻めるか？」

「やめときましょう」榛名は意外に早く、あっさり答えた。「戦力比は圧倒的に上だし…無駄に弾は使えないわ」

